



師走から一気に年が明けたように思えた元旦、そして予想もしなかった激甚災害。この度の最大震度7を観測した能登半島地震により犠牲になられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞申し上げます。一日も早く平穏な生活に戻られますことをお祈り申し上げます。

中学校では、年明けとともに中間テスト(1月24日、25日)。3年生は、京丹後市内の6つの中学校が行う「第3回学カテスト(最終)」1月10日に実施されました。2月になれば、私立入試、公立前期選抜入試、3月には公立中期選抜入試等の実施予定。



ひと月前、保育所・子ども園ではクリスマス会。ジングルベルとともに現れたサンタさんに子どもたちは、・・・～サンタさんは、どこから来たの？何が好きなの？と・・・途切れることなく質問が飛び交いました。



展示された自分の作品について、作業工程や工夫したことをステージで堂々と説明ができました。また、サンタさんの登場に子どもたちは歓声をあげていました。そんな子どもたちも、10年後は、自分自身の進路を実現させるために奮闘していることでしょう。心身ともに成長していく段階で、つけるべき力が確実に身に付くよう学園の教職員一同、力を合わせがんばります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



小学校(丹後)の始業式

3学期は51日、あっという間に過ぎていく、この時期に次の学年の準備をしておく大事な時期。新しい年の初めに決意したことを忘れることなく、学び合い・伝え合いを大切に、健康にも十分に注意していきましようとの室井校長から式辞がありました。



学園の連携事業(保育所・子ども園交流会)

1月18日、宇川保育所と丹後子ども園の子どもたち(3歳から5歳)が、子ども園で、仲良く遊ぶ時間となりました。交流のねらいとして、保育所、子ども園ともに「**幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿**」をめざしています！



*10の姿には、



- ◆子どもが心と体を思い切り動かし、健康や安全の意識を育むこと、
- ◆友達とアイデアを共有したり、約束事を守ったりして達成感を味わうこと、
- ◆集団生活(友達とのかかわり)をとおして、楽しい気持ちや悲しい気持ちの感情を経験することなどがあります。

遊びをとおして交流する活動は、小学校入学までに育ってほしい資質能力を身につける大切な活動と位置づけています。遊びを通して保・幼で身につけた力が小学校で重要な**3つの柱(①②③)**につながっていくよう指導や支援を展開しています。

〔①知識・技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力の基礎 ③学びに向かう力・人間性〕



第34回丹後町少年少女意見発表大会 令和6年1月17日(水)午後2時～

主催 京丹後市教育委員会 主管 丹後地域公民館 共催 丹後町公民館連絡協議会

*丹後地域公民館で、町内2小学校と中学校から児童生徒7名の発表がありました。

書くことを通して自分自身の考えや行為を順序立てて整理する力や相手に自分の考えや気持ちをうまく伝える力を育てる機会にもなりました。



- 宇川小学校5年生 井上 海信 さん 題「だれかのために」
- 丹後小学校5年生 小谷 航太 さん 題「僕にとっての大切なバレーボール」
- 宇川小学校6年生 永美 壮太郎 さん 題「続けることで変わる考え」
- 丹後小学校6年生 中井 うい さん 題「あきらめないで、無駄じゃやないから」
- 丹後中学校1年生 山本 鈴 さん 題「笑顔を広げたい」
- 丹後空学校2年生 溝尻 寛太 さん 題「人を追い詰める言葉」
- 丹後中学校3年生 久保 日菜乃 さん 題「多様化する社会で」



*発表後、丹後学園代表 藤原校長(丹後中)より、以下のとおり講評がありました。

7名の発表者の皆さん、発表ありがとうございました。それぞれの思いがしっかりと伝わるすばらしい内容でした。

丹後学園が目指している子どもの姿は、「豊かな心を持ち、未来に向かって自分で夢を切り開き、行動できる子ども」です。本日の皆さんの発表は目指している姿そのものです。自分の考え方・感じ方をしっかり持って、発表することができていました。

また、このように丹後町の小中学校の児童生徒の意見を多くの皆さんに聞いていただける発表大会が今回で34回目と、歴史と伝統を持ち続けながら継続していただき、深く感謝申し上げます。

それでは、本日の発表について、少しお時間をいただき、お話しさせていただきます。

○宇川小学校5年生の

井上 海信 (いのうえ うみちか) さんは、「ぼくは将来、だれかのために何かをがんばれる大人になりたい」と決意した内容でした。人権学習で自分の良い所を見つけてくれた嬉しさを感じ、読書を通して出会ったトヨタ自動車を作った人物、国語の授業で学習した、やなせたかしさんの言葉には共通の点があったことを伝えてくれました。それは、「人を助けるためには自分も覚悟しなければならない」この言葉を胸に、今できることをしっかりと見つめることが出来たすばらしい内容でした。

○丹後小学校5年生の

小谷 航太 (おだに こうた) さんは、今習っているバレーボールに対して発表しました。お母さんから勧められて始めたものの、なかなかうまくいかずに、あきらめようと思いましたが、初めての大会に出た時にいい結果が出て、そこから楽しさや友達がいる安心さを感じました。みんなと一緒に練習する楽しさやみんなのいい所を認めあって技術をつけていく大切さ。次のチームではキャプテンになってみんなを引っ張ろうと強い決意が伝わってくる内容でした。

○宇川小学校6年生の

永美 壮太郎 (ながみ そうたろう) さんは、「続けることで変わる考え」として、日記を通して得たことを発表しました。最初は日記を書くことが好きではなかったが、日記は「自由に書ける」という印象の変化から、工夫したり、題名にこだわったり、どんな内容なら面白く読めるのかなどを考える内に夢中になった様子が見られました。「挑戦して、続けることが大切だ」この言葉を座右の銘として、日記

をとおして、これからすべてのことに対して挑戦する大切さを得たことが表現された内容でした。

○丹後小学校6年生の

中井 うい (なかい うい) さんは、3年間バレーボールを習ったことと、大切にしている言葉「無駄なことって、結局無駄じゃない」とを掛け合わせた経験を発表しました。バレーボールのサーブ練習を毎日行っていました。なかなかネットを越えずに、上達しない日々で、練習してもうまくなならないと諦めた時期がありました。ある日突然ネットを越えるようになり、試合にも出してもらえようになった経験より、無駄ではなく、あきらめずに頑張ることへの決意と周りの人へも声をかけていきたい思いが伝わってくる内容でした。

○丹後中学校1年生の

山本 鈴 (やまもと すず) さんは、「自分だけの世界だったら、絶対に今の私にはなれていない」というテーマから身の回りの人との関わりで今の自分があることを発表しました。小学校時代の授業で自分の長所を書くことがあり、自分が長所だと思っても、みんなからはどう思われているか不安でなかなか書けない自分。しかし、友達が私の長所を書いてくれた内容を見た時に、今までの不安は一気に吹き飛び、友達はたくさんの優しい言葉を書いてくれていて、自分に自信が持て、今の生活があること。これからも「笑顔」を沢山届けられる人になりたいと決意した内容でした。

○丹後中学校2年生の

溝尻 寛太 (みぞしり かんた) さんは、インターネット、SNSの使い方から「人を追い詰める言葉」と題して想いを発表しました。ネット上で「誹謗中傷」が増え続け、「死」に追い詰められている現実を知り、直接会話しなくていいことに、ひどい言葉を書き込んでしまうこと、遊び半分に複数で書き込んでしまうこと、その結果、人を追い詰めてしまっている現代の課題にしっかりと向き合っている内容でした。誹謗中傷をなくしたい、改めてインターネットの正しい使い方を提案したい思いが伝わってきました。

○丹後中学校3年生の

久保 日菜乃 (くぼ ひなの) さんは、国際交流が進んでいる社会において大切な事を提案しました。「エンパシー」という言葉。日本で実際に聞いた一つの例で感じたこと、自分を相手の立場に置き換えて考えてみることに価値があること。今後、世界はすさまじいスピードで変化していくからこそ、「エンパシー」を理解し、行動することが大切であり、その心のはたらきが多様性を包み込む大きな意識になるはずだと発表しました。人と人との関わり大切さを改めて伝えてくれたすばらしい内容でした。

本を読んだり、自分の経験を基に思いを発表したりすることは、自分の考えを広げられる素晴らしいことです。小、中学生の時代は、やわらかいスポンジのように何でも吸収できるやわらかい感性があるように思います。これからも好きな本と出会い沢山読書したり、自分の経験を増やしたりして、色々なことに向き合ってください。

最後になりましたが、この発表大会がすばらしいものとなりましたのは、各学校で児童生徒の皆さんが一生懸命取り組んできた成果がこの場で発揮されたものと思います。また、本日、会場にお越しの皆様や各学校の児童生徒のみなさんが発表に心を傾け聴いていただいたお陰と感謝しております。発表者のみなさん、発表を聞いていただいた皆様、本大会に携わって来られた関係者の皆様にお礼を申し上げ、講評とさせていただきます。ありがとうございました。

※二次元コードをご活用ください。HPでも見ることができます。

